

2021年合格目標

完全合格コース

財務諸表論

テキスト
No. 1

FINANSIAL ACCOUNTING



TAC税理士講座



財表完全合格コース基本テキストNo.1 コントロールタワー

回数 教材	学 習 内 容	理論 テキスト	基本 (計算) テキスト	トレーニング	ポイント チェック
第1回 (計算)	オリエンテーション 計算書類等 計算規則%の概要		P. 1 ～ P. 32	問題1 ～ 問題3	
第2回 (計算)	計算規則%の概要 計算規則%の概要 計算書類等		P. 33 ～ P. 62	問題4 ～ 問題9	
第3回 (計算)	現金・預金 金銭債権		P. 63 ～ P. 91	問題10 ～ 問題18	
第4回 (計算)	金銭債権 有形固定資産		P. 92 ～ P. 124	問題19 ～ 問題28	
第5回 (計算)	無形固定資産 繰延資産 金銭債務 引当金		P. 125 ～ P. 168	問題29 ～ 問題38	
第6回 (計算)	有価証券 たな卸資産 税金		P. 169 ～ P. 195	問題39 ～ 問題43	
第7回 (計算)	税金 純資産会計		P. 196 ～ P. 232	問題44 ～ 問題56	
第8回 (理論)	実力テスト (通信添削問題) 財務会計 静態論・動態論				1-1 ～ 1-2

※ なお、理論テキストは、テキストNo.2第1回で配布します。

テーマ	学 習 内 容	テ キ ス ト	
		完全合格	
1	計算書類等	●	NO. 1
2	計算規則 $\frac{1}{2}$ の概要	●	NO. 1
3	計算規則 $\frac{1}{2}$ の概要	●	NO. 1
4	製造業の会計	●	NO. 4
5	現金・預金	●	NO. 1
6	金銭債権	●	NO. 1/2
7	有価証券	●	NO. 1/3
8	たな卸資産	●	NO. 1/2
9	有形固定資産	●	NO. 1/2
10	無形固定資産	●	NO. 1/3
11	繰延資産	●	NO. 1/3
12	金銭債務	●	NO. 1/4
13	引当金	●	NO. 1
14	退職給付会計	●	NO. 3/4
15	純資産会計	●	NO. 1/4
16	税金	●	NO. 1
17	税効果会計	●	NO. 3
18	外貨建取引	●	NO. 4
19	分配可能額計算	●	—
20	財務諸表等規則における固有の表示	●	—
21	会計上の変更等	●	—

(注) は本テキストの収録部分を示す。

テーマ	学 習 内 容	テ キ ス ト	
		完全合格	
1	財務諸表論の全体構造Ⅰ	●	NO. 1
2	会計公準・会計原則	●	NO. 2
3	損益会計	●	NO. 2
4	資産会計	●	NO. 2/3
5	負債会計	●	NO. 3
6	財務諸表	●	—
7	財務諸表論の全体構造Ⅱ	●	NO. 3
8	概念フレームワーク	●	NO. 3
9	金融基準	●	NO. 3
10	リース基準	●	NO. 3
11	減損基準	●	NO. 3
12	棚卸資産基準	●	NO. 4
13	研究開発基準（ソフトウェア含む）	●	NO. 4
14	退職給付基準	●	NO. 4
15	資産除去債務基準	●	NO. 4
16	税効果基準	●	NO. 4
17	工事契約基準	●	NO. 4
18	企業結合基準		—
19	事業分離基準		—
20	外貨換算基準		—
21	純資産基準	●	NO. 4
22	ストック・オプション基準	●	NO. 4
23	包括利益計算書基準	●	NO. 4
24	キャッシュ・フロー基準		—
25	連結財務諸表基準		—
26	四半期財務諸表基準		—
27	会計上の変更等基準		—
28	収益認識基準		—

(注) は本テキストの収録部分を示す。

1 計算の全体構造

テーマ1 計算書類等

番 号	内 容	完全合格
1-1	計算書類等の概要	No. 1・第1回
1-2	注記表の概要	No. 1・第2回

テーマ2 計算規則 $\frac{\%}{\%}$ の概要

番 号	内 容	完全合格
2-1	計算規則 $\frac{\%}{\%}$ のフォーム	No. 1・第1回
2-2	資産の部の表示科目	No. 1・第1回
2-3	負債の部の表示科目	No. 1・第1回
2-4	純資産の部の表示科目	No. 1・第1回
2-5	経過勘定項目	No. 1・第2回

テーマ3 計算規則 $\frac{\%}{\%}$ の概要

番 号	内 容	完全合格
3-1	計算規則 $\frac{\%}{\%}$ のフォーム	No. 1・第2回
3-2	計算規則 $\frac{\%}{\%}$ の表示科目	No. 1・第2回
3-3	売上高の表示	No. 1・第2回
3-4	売上原価の表示	No. 1・第2回

テーマ4 製造業の会計

番 号	内 容	完全合格
4-1	製造業の概要と固有の表示	No. 4・第6回
4-2	製造原価報告書	No. 4・第6回
4-3	期末仕掛品の評価	No. 4・第6回
4-4	製造業（たな卸資産）に関連する注記事項	No. 4・第6回

2 資産会計

テーマ5 現金・預金

番 号	内 容	完全合格
5-1	現金の範囲	No. 1・第3回
5-2	預金の範囲	No. 1・第3回
5-3	銀行勘定の調整	No. 1・第3回
5-4	当座借越	No. 1・第3回
5-5	運用目的の金銭信託	———
5-6	現金・預金に関連する注記事項	No. 1・第3回

テーマ6 金銭債権

番 号	内 容	完全合格
6-1	金銭債権の範囲と表示科目	No. 1・第3回
6-2	関係会社に対する金銭債権の表示	No. 1・第3回
6-3	貸倒引当金の表示と会計処理	No. 1・第4回
6-4	貸倒発生時の処理と表示	No. 1・第4回
6-5	前期貸倒債権の取立	No. 1・第4回
6-6	割引手形・裏書手形の処理	No. 2・第2回
6-7	不渡手形	—————
6-8	破産更生債権等	No. 2・第2回
6-9	貸倒見積高の算定	No. 2・第2回
6-10	金銭債権に関連する注記事項	No. 1・第4回 No. 2・第2回

テーマ7 有価証券

番 号	内 容	完全合格
7-1	有価証券の範囲	No. 1・第6回
7-2	有価証券の表示科目	No. 1・第6回
7-3	有価証券の売却損益の表示区分	No. 1・第6回
7-4	売買目的有価証券	No. 3・第4回
7-5	満期保有目的の債券	No. 3・第4回
7-6	子会社株式・関連会社株式	No. 3・第4回
7-7	市場価格のあるその他有価証券	No. 3・第4回
7-8	市場価格のないその他有価証券	No. 3・第4回
7-9	有価証券の減損処理	No. 3・第4回
7-10	有価証券の売買の認識	No. 3・第6回
7-11	証券投資信託	No. 3・第6回
7-12	剰余金の処分による配当を受けた場合の会計処理	No. 3・第6回
7-13	ゴルフ会員権	—————
7-14	有価証券に関連する注記事項	No. 1・第6回 No. 3・第6回

テーマ8 たな卸資産

番 号	内 容	完全合格
8-1	たな卸資産の表示科目	No. 1・第6回
8-2	たな卸資産の評価	No. 1・第6回
8-3	売価還元法	—————
8-4	売上原価の付加項目	No. 2・第2回
8-5	たな卸資産に関連する注記事項	No. 1・第6回 No. 2・第2回

テーマ9 有形固定資産

番 号	内 容	完全合格
9-1	有形固定資産の範囲と表示科目	No. 1・第4回
9-2	投資不動産	No. 1・第4回
9-3	減価償却の方法	No. 1・第4回
9-4	減価償却累計額の表示	No. 1・第4回
9-5	除却・売却に伴う会計処理	No. 2・第4回
9-6	買換に伴う会計処理	No. 2・第4回
9-7	災害に伴う会計処理	No. 2・第4回
9-8	耐用年数の短縮に伴う会計処理	No. 2・第4回
9-9	交換に伴う会計処理	—————
9-10	資本的支出に伴う会計処理	No. 2・第4回
9-11	圧縮記帳	No. 2・第4回
9-12	リース資産の会計処理	No. 2・第6回
9-13	減損会計	No. 2・第6回
9-14	資産除去債務	No. 2・第6回
9-15	有形固定資産に関連する注記事項	No. 1・第4回 No. 2・第6回

テーマ10 無形固定資産

番 号	内 容	完全合格
10-1	無形固定資産の範囲と表示科目	No. 1・第5回
10-2	無形固定資産の償却	No. 1・第5回
10-3	不動産取引に伴う権利金	—————
10-4	ソフトウェア	No. 3・第2回
10-5	無形固定資産に関連する注記事項	No. 1・第5回 No. 3・第2回

テーマ11 繰延資産

番 号	内 容	完全合格
11-1	繰延資産の範囲と表示科目	No. 1・第5回
11-2	繰延資産の処理方法	No. 1・第5回
11-3	研究開発費	No. 3・第2回
11-4	繰延資産に関連する注記事項	No. 1・第5回

3 負債・純資産会計

テーマ12 金銭債務

番 号	内 容	完全合格
12-1	金銭債務の範囲と表示科目	No. 1・第5回
12-2	関係会社に対する金銭債務の表示	No. 1・第5回
12-3	普通社債	No. 4・第2回
12-4	金銭債務に関連する注記事項	No. 1・第5回

テーマ13 引当金

番 号	内 容	完全合格
13-1	負債の部に表示される引当金の範囲	No. 1・第5回
13-2	引当金の%表示区分と繰入額の%表示区分	No. 1・第5回
13-3	引当金の使用	No. 1・第5回
13-4	引当金に関連する注記事項	No. 1・第5回

テーマ14 退職給付会計

番 号	内 容	完全合格
14-1	退職給付制度の概要	No. 3・第6回
14-2	退職給付会計の基本的な仕組み	No. 3・第6回
14-3	「差異」の費用処理	No. 3・第6回
14-4	退職給付会計における会計処理	No. 3・第6回
14-5	退職給付会計における表示方法	No. 3・第6回
14-6	小規模企業等における簡便法	No. 4・第2回
14-7	退職給付会計に関連する注記事項	No. 4・第2回

テーマ15 純資産会計

番 号	内 容	完全合格
15-1	新株発行に伴う会計処理と表示	No. 1・第7回
15-2	資本金及び資本準備金の額	No. 1・第7回
15-3	剰余金の配当に伴う準備金の積立	No. 1・第7回
15-4	株主資本の計数の変動	No. 1・第7回
15-5	自己株式の処理・表示	No. 4・第4回
15-6	新株予約権	No. 4・第4回
15-7	ストック・オプション	No. 4・第6回
15-8	新株予約権付社債	No. 4・第6回
15-9	株主資本等変動計算書	No. 4・第6回
15-10	純資産に関連する注記事項	———

4 その他の計算

テーマ16 税金

番 号	内 容	完全合格
16-1	法人税等の概要	No. 1・第6回
16-2	法人税・住民税の処理・表示	No. 1・第6回
16-3	事業税の処理・表示	No. 1・第7回
16-4	法人税等の追徴税額	No. 1・第7回
16-5	法人税等の還付税額	No. 1・第7回
16-6	消費税	No. 1・第7回
16-7	税金に関連する注記事項	No. 1・第7回

テーマ17 税効果会計

番 号	内 容	完全合格
17-1	税効果会計の概要	No. 3・第2回
17-2	適用手順	No. 3・第2回
17-3	将来減算一時差異	No. 3・第2回
17-4	将来加算一時差異	No. 3・第2回
17-5	財務諸表の表示	No. 3・第2回
17-6	税効果会計に関連する注記事項	No. 3・第2回

テーマ18 外貨建取引

番 号	内 容	完全合格
18-1	取引発生時に適用する為替相場	No. 4・第2回
18-2	取引決済時に適用する為替相場	No. 4・第2回
18-3	為替差損益の処理と表示	No. 4・第2回
18-4	決算時に適用する為替相場	No. 4・第2回
18-5	為替予約	No. 4・第2回
18-6	外貨建有価証券の期末換算	No. 4・第4回
18-7	外貨建取引に関連する注記事項	No. 4・第4回

1 財務諸表論の全体構造 /

テーマ1-1 財務会計

番 号	内 容	完全合格
1	財務会計	No. 1・第8回

テーマ1-2 静態論・動態論

番 号	内 容	完全合格
1	静態論の特徴	No. 1・第8回
2	動態論の特徴	No. 1・第8回

テーマ1-3 制度会計の概要

番 号	内 容	完全合格
1	制度会計の概要	———

2 会計公準・会計原則

テーマ2-1 会計公準

番 号	内 容	完全合格
1	会計公準	———

テーマ2-2 企業会計原則

番 号	内 容	完全合格
1	真実性の原則	No. 2・第1回
2	正規の簿記の原則	No. 2・第1回
3	資本・利益区別の原則	No. 2・第1回
4	明瞭性の原則	No. 2・第1回
5	継続性の原則	No. 2・第1回
6	保守主義の原則	No. 2・第1回
7	単一性の原則	No. 2・第1回
8	重要性の原則	No. 2・第1回

3 損益会計

テーマ3-1 損益計算の構造

番 号	内 容	完全合格
1	期間損益計算	No. 2・第1回
2	現金主義会計と発生主義会計	No. 2・第3回
3	企業会計原則に準拠した発生主義会計の枠組み	No. 2・第3回

テーマ3-2 収益の認識

番 号	内 容	完全合格
1	収益の認識原則	No. 2・第3回
2	収益の例外的な認識原則	No. 2・第3回

テーマ3-3 費用の認識

番 号	内 容	完全合格
1	費用の認識原則	No. 2・第3回

テーマ3-4 収益・費用の測定

番 号	内 容	完全合格
1	収益・費用の測定原則	No. 2・第3回

4 資産会計

テーマ4-1 資産の概要

番 号	内 容	完全合格
1	資産の概要	No. 2・第5回
2	原価主義の原則と費用配分の原則	No. 2・第5回

テーマ4-2 棚卸資産

番 号	内 容	完全合格
1	棚卸資産の範囲	No. 2・第5回
2	棚卸資産の取得原価	No. 2・第5回
3	棚卸資産の費用配分（数量計算）	No. 2・第5回
4	棚卸資産の費用配分（金額計算）	No. 2・第5回

テーマ4-3 有形固定資産

番 号	内 容	完全合格
1	有形固定資産の取得原価	No. 2・第7回
2	減価償却の意義・目的・効果	No. 2・第7回
3	減価償却の方法	No. 2・第7回

テーマ4-4 無形固定資産

番 号	内 容	完全合格
1	のれん	No. 2・第7回

テーマ4-5 繰延資産

番 号	内 容	完全合格
1	繰延資産の意義	No. 3・第1回
2	繰延経理の根拠	No. 3・第1回
3	各繰延資産の取扱い	No. 3・第1回

5 負債会計

テーマ5－1 負債の概要

番 号	内 容	完全合格
1	負債の概要	No. 3・第1回

テーマ5－2 引当金

番 号	内 容	完全合格
1	引当金の意義・計上要件・計上根拠	No. 3・第1回
2	引当金の分類	No. 3・第1回
3	偶発債務	No. 3・第1回

6 財務諸表

テーマ6－1 財務諸表の体系

番 号	内 容	完全合格
1	財務諸表の体系	――

テーマ6－2 損益計算書

番 号	内 容	完全合格
1	損益計算書の本質	――
2	損益計算書作成の考え方	――
3	損益計算書の作成原則	――

テーマ6－3 貸借対照表

番 号	内 容	完全合格
1	貸借対照表の本質	――
2	貸借対照表の機能	――
3	貸借対照表完全性の原則	――

7 財務諸表論の全体構造 II

テーマ7－1 収益費用アプローチ・資産負債アプローチ

番 号	内 容	完全合格
1	収益費用アプローチ（収益費用中心観）	No. 3・第3回
2	資産負債アプローチ（資産負債中心観）	No. 3・第3回
3	損益計算書と貸借対照表の連携	No. 3・第3回

8 概念フレームワーク

テーマ8－1 財務報告の目的

番 号	内 容	完全合格
1	財務報告の目的	No. 3・第3回

テーマ8-2 会計情報の質的特性

番 号	内 容	完全合格
1	会計情報の質的特性	No. 3・第3回

テーマ8-3 財務諸表の構成要素

番 号	内 容	完全合格
1	資産・負債・純資産・株主資本	No. 3・第3回
2	包括利益・純利益	No. 3・第3回
3	収益・費用	No. 3・第3回

テーマ8-4 財務諸表における認識と測定

番 号	内 容	完全合格
1	概要	No. 3・第3回

9 金融基準

テーマ9-1 金融商品に関する会計基準の概要

番 号	内 容	完全合格
1	金融資産・金融負債の発生の認識	No. 3・第5回
2	金融資産・金融負債の消滅の認識	No. 3・第5回

テーマ9-2 金融資産の評価の概要

番 号	内 容	完全合格
1	金融資産の評価に関する基本的考え方	No. 3・第5回

テーマ9-3 金銭債権・債務

番 号	内 容	完全合格
1	金銭債権	No. 3・第5回
2	金銭債務	No. 3・第5回

テーマ9-4 有価証券

番 号	内 容	完全合格
1	売買目的有価証券	No. 3・第5回
2	満期保有目的の債券	No. 3・第5回
3	子会社株式及び関連会社株式	No. 3・第5回
4	その他有価証券	No. 3・第5回
5	時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券	No. 3・第5回
6	有価証券の減損処理	No. 3・第5回

テーマ9-5 デリバティブ取引

番 号	内 容	完全合格
1	デリバティブ取引	———

テーマ9-6 ヘッジ会計

番 号	内 容	完全合格
1	ヘッジ会計の概要	———
2	ヘッジ会計の方法	———

10 リース基準

テーマ10-1 リース基準

番 号	内 容	完全合格
1	リース取引の分類	No. 3・第7回
2	売買取引に係る方法に準じて会計処理する理由	No. 3・第7回
3	リース資産の資産性及びリース債務の負債性	No. 3・第7回
4	リース資産・リース債務の計上額の算定	No. 3・第7回

11 減損基準

テーマ11-1 減損基準

番 号	内 容	完全合格
1	減損処理とは	No. 3・第7回
2	減損処理と時価評価の相違	No. 3・第7回
3	会計手続の流れ	No. 3・第7回

12 棚卸資産基準

テーマ12-1 棚卸資産基準

番 号	内 容	完全合格
1	通常の販売目的で保有する棚卸資産の評価	No. 4・第1回
2	トレーディング目的で保有する棚卸資産の評価	No. 4・第1回

13 研究開発費基準（ソフトウェア含む）

テーマ13-1 研究開発費

番 号	内 容	完全合格
1	研究開発費	No. 4・第1回
2	発生時費用処理の根拠	No. 4・第1回

テーマ13-2 ソフトウェア

番 号	内 容	完全合格
1	ソフトウェアの概要	No. 4・第1回
2	受注制作のソフトウェア	No. 4・第1回
3	市場販売目的のソフトウェア	No. 4・第1回
4	自社利用のソフトウェア	No. 4・第1回

14 退職給付基準

テーマ14-1 退職給付基準

番 号	内 容	完全合格
1	退職給付とは	No. 4・第3回
2	退職給付債務	No. 4・第3回
3	年金資産	No. 4・第3回
4	退職給付費用	No. 4・第3回
5	数理計算上の差異及び過去勤務費用の遅延認識	No. 4・第3回

15 資産除去債務基準

テーマ15－1 資産除去債務基準

番 号	内 容	完全合格
1	資産除去債務の定義	No. 4・第3回
2	資産除去債務の負債計上	No. 4・第3回
3	資産除去債務の会計処理	No. 4・第3回
4	除去費用の資産計上と費用配分	No. 4・第3回

16 税効果基準

テーマ16－1 税効果基準

番 号	内 容	完全合格
1	税効果会計の目的	No. 4・第5回
2	税効果会計の処理方法	No. 4・第5回
3	繰延税金資産及び繰延税金負債	No. 4・第5回

17 工事契約基準

テーマ17－1 工事契約基準

番 号	内 容	完全合格
1	工事契約に係る認識基準	No. 4・第5回
2	工事進行基準と工事完成基準	No. 4・第5回
3	工事契約から損失が見込まれる場合の取扱い	No. 4・第5回

18 企業結合基準

テーマ18－1 企業結合基準

番 号	内 容	完全合格
1	企業結合とは	_____
2	取得と持分の結合	_____
3	パーチェス法	_____
4	のれんの会計処理	_____
5	負ののれんの会計処理	_____

19 事業分離基準

テーマ19－1 事業分離基準

番 号	内 容	完全合格
1	事業分離とは	_____
2	分離元企業の会計処理	_____
3	被結合企業の株主の会計処理	_____

20 外貨換算基準

テーマ20－1 外貨換算基準

番 号	内 容	完全合格
1	外貨換算の方法	_____
2	外貨建取引の処理方法	_____
3	為替予約等	_____

21 純資産表示基準

テーマ21－1 純資産表示基準

番 号	内 容	完全合格
1	純資産の概要	No. 4・第5回

テーマ21－2 株主資本

番 号	内 容	完全合格
1	区分の基本的考え方	No. 4・第7回
2	資本剰余金	No. 4・第7回
3	利益剰余金	No. 4・第7回
4	自己株式	No. 4・第7回
5	株主資本等変動計算書	No. 4・第7回
6	分配可能額計算	No. 4・第7回

22 スtock・オプション基準

テーマ22－1 スtock・オプション基準

番 号	内 容	完全合格
1	権利確定日以前の会計処理	No. 4・第7回
2	権利確定日後の会計処理	No. 4・第7回

23 包括利益計算書基準

テーマ23－1 包括利益計算書基準

番 号	内 容	完全合格
1	概要	No. 4・第7回
2	包括利益を表示する目的	No. 4・第7回

24 キャッシュ・フロー計算書基準

テーマ24－1 キャッシュ・フロー計算書基準

番 号	内 容	完全合格
1	キャッシュ・フロー計算書の概要	_____
2	キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	_____
3	キャッシュ・フロー計算書の表示区分	_____
4	営業活動によるキャッシュ・フローの表示方法	_____

25 連結財務諸表基準

テーマ25－1 連結財務諸表基準

番 号	内 容	完全合格
1	連結財務諸表の作成目的	_____
2	連結財務諸表作成の一般原則	_____
3	連結基礎概念	_____

26 四半期財務諸表基準

テーマ26－1 四半期財務諸表基準

番 号	内 容	完全合格
1	四半期財務諸表の性格	_____
2	四半期財務諸表の特徴	_____

27 会計上の変更等基準

テーマ27－1 会計上の変更等基準

番 号	内 容	完全合格
1	会計上の変更等に関する取扱い	_____
2	会計方針の変更	_____
3	表示方法の変更	_____
4	会計上の見積りの変更	_____
5	過去の誤謬	_____

28 収益認識基準

テーマ28－1 収益認識基準

番 号	内 容	完全合格
1	収益認識基準	_____

テキスト

<今回の学習内容>

第1回講義 使用ページ
P 1 ~32

テーマ 0

オリエンテーション

理論：重要度 ー

計算：重要度 ー

これから税理士試験における財務諸表論の学習を始めていくことになるが、この財務諸表論とはどのようなものか、その概要をみていくこととする。



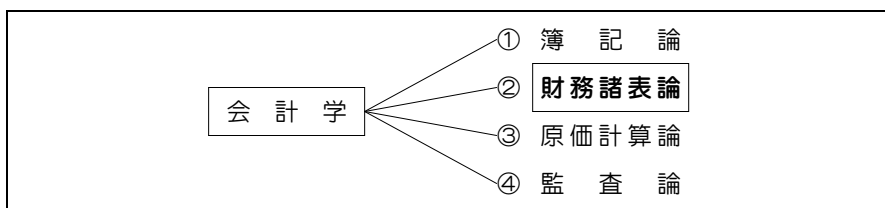
このテーマの学習内容

テーマ番号	学 習 内 容	完全合格
1	税理士試験と財務諸表論	No.1 第1回
2	財務諸表論の学習内容	No.1 第1回
3	財務諸表論の計算の学習方法	No.1 第1回

1 税理士試験と財務諸表論

1 財務諸表論とは

皆さんにとっては、「財務諸表論」（これを省略して「財表」と呼ぶことがある。）という言葉よりも「会計学」という言葉の方がなじみがあるのではないだろうか。この「会計学」は、実は特定の学問をさすのではなく、①簿記論、②財務諸表論、③原価計算論、④監査論という独立した4つの学問を総称した言葉なのである。したがって、皆さんがこれからチャレンジする「財務諸表論」は、会計学という学問領域の一分野ということになる。



この財務諸表論という学問は、企業を取り巻く各種の**利害関係者**（主として**投資者**や**債権者**）に対して企業の経営活動の内容とその結果を報告するために、企業活動における各種の取引を記録にとどめ、定期的にこれを取りまとめて**財務諸表**（**貸借対照表**や**損益計算書**等）が作成されるまでの各段階における考え方を研究し、そこから一定の約束事を創りあげてをねらいとする学問である。

2 税理士試験での出題形式

税理士試験における財務諸表論の問題は、上述の「財務諸表作成までの各段階における考え方」を問う「理論問題」と、実際の「財務諸表の作成方法」を問う「計算問題」から構成されている。なお、「理論問題」の出題者は学者（大学教授等）2名となっており、論述形式等により出題される。また、「計算問題」の出題者は実務家（税理士や公認会計士）2名となっており、現実の企業を想定した財務諸表の作成を中心とした問題が出題されている。

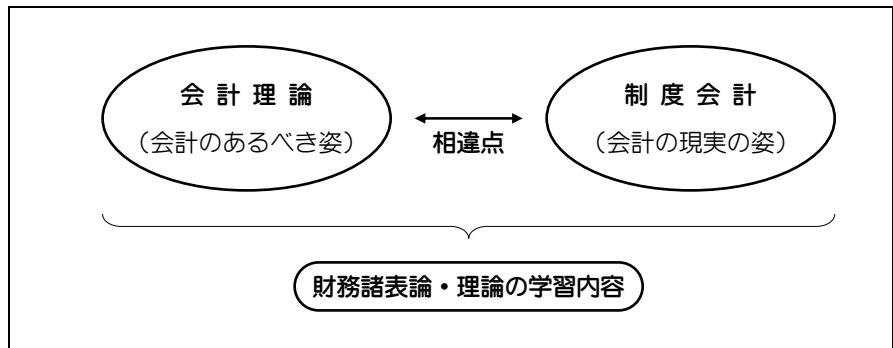
形 式	配 点	出題内容	出 題 形 式	出 題 者
第一問	25点	会計理論	論述形式等	学 者
第二問	25点			
第三問	50点	制度会計	財務諸表の作成	実務家
合 計	100点			

（注）税理士試験要綱によれば、合格基準は満点の60パーセントとされている。

2 財務諸表論の学習内容

1 理論の学習内容

理論の出題は「会計理論」を中心に行われる。しかし、「会計理論」はあくまでも理想であり、現実の法規制に基づく会計（「制度会計」という）との間にはギャップが生じている場合もある。よって、このギャップを学ぶことも理論における大切な論点となる。したがって、理論の学習では「会計理論」を中心に、一部「会計法規」（企業が財務諸表を作成する際に従わなければならない一定の法律や規則）の内容も学習していくこととなる。また、「会計理論」と「制度会計」の折衷的性格をもつものとして「一般に公正妥当と認められる企業会計の基準」があり、代表的なものとして、企業会計原則や金融商品に関する会計基準がある。これらの規定内容を理解することも理論における大切な学習内容となる。



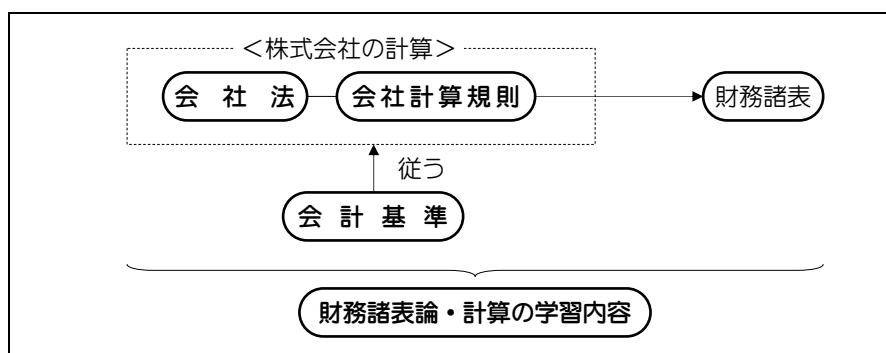
2 計算の学習内容

計算の出題は「財務諸表の作成」を中心に行われる。企業が財務諸表を作成する際には従わなければならない一定の法律や規則があり、計算においては、その財務諸表の作成手続に関する法律や規則（会計法規）の学習が中心となる。

とくに税理士試験においては「会社法」及び「会社計算規則」の規定に準拠した財務諸表の作成問題を中心に出題される。よって、計算の学習においては「会社法」及び「会社計算規則」といった法律や規則に定める種々の約束事をマスターしていくことが重要となる。

ただし、「会社法」及び「会社計算規則」は財務諸表の作成に関する約束事のすべてを規定しているわけではない。「会社法」では、「株式会社の会計は、一般に公正妥当と認められる企業会計の慣行に従うものとする。」と規定しており、また、「会社計算規則」では、「この省令の用語の解釈及び規定の適用に関しては、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準その他の企業会計の慣行を斟酌しなければならない。」と規定している。

したがって、株式会社の会計に関しては、「会社法」及び「会社計算規則」に規定があるものもないものも含めて、すべて「一般に公正妥当と認められる企業会計の基準」に従う必要がある。また、「会社計算規則」は、株式会社の計算に関して、概括的に規定されており、また、その事象についても一定の幅をもたせてその選択適用を認めている。この「会社計算規則」の具体的適用に関しても形式的に適用するのではなく、「一般に公正妥当と認められる企業会計の慣行」に従って、実質的に適用していく必要がある。



③ 財務諸表論と会計法規等

これまでのところで、財務諸表論は「会計法規等」と結びつけた学習が必要となるということが理解できたと思う。そこで、具体的に必要となる会計法規等を示しておく。

会 計 法 規 ・ 会 計 基 準 の 名 称	略 称
企業会計原則	企 原
企業会計原則注解	企 原 注 解
企業会計原則と関係諸法令との調整に関する連続意見書	連 続 意 見 書
会社法	—
会社計算規則	計 規
金融商品取引法	金 商 法
財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則	財務諸表等規則 又は 財 規
「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」の取扱いに関する留意事項	財規ガイドライン 又は 財 ガ イ
外貨建取引等会計処理基準	外 貨 基 準
研究開発費等に係る会計基準	研究開発基準
税効果会計に係る会計基準	税 効 果 基 準
連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準	連結キャッシュ基準
退職給付に関する会計基準	退職給付基準
固定資産の減損に係る会計基準	減 損 基 準
自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準	自 己 株 基 準
1株当たり当期純利益に関する会計基準	1株当たり純利益基準
貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準	純資産表示基準
株主資本等変動計算書に関する会計基準	変動計算書基準
事業分離等に関する会計基準	事業分離基準
ストック・オプション等に関する会計基準	ストック・オプション基準
棚卸資産の評価に関する会計基準	棚卸資産基準
金融商品に関する会計基準	金 融 基 準
四半期財務諸表に関する会計基準	四 半 期 基 準
リース取引に関する会計基準	リ ー ス 基 準
工事契約に関する会計基準	工事契約基準
持分法に関する会計基準	持 分 法 基 準
セグメント情報等の開示に関する会計基準	セグメント基準
賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準	賃貸等不動産基準
資産除去債務に関する会計基準	資産除去債務基準
企業結合に関する会計基準	企業結合基準
連結財務諸表に関する会計基準	連 結 基 準
会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準	変 更 基 準
包括利益の表示に関する会計基準	包括利益表示基準
収益認識に関する会計基準	収益認識基準

3 財務諸表論の計算の学習方法

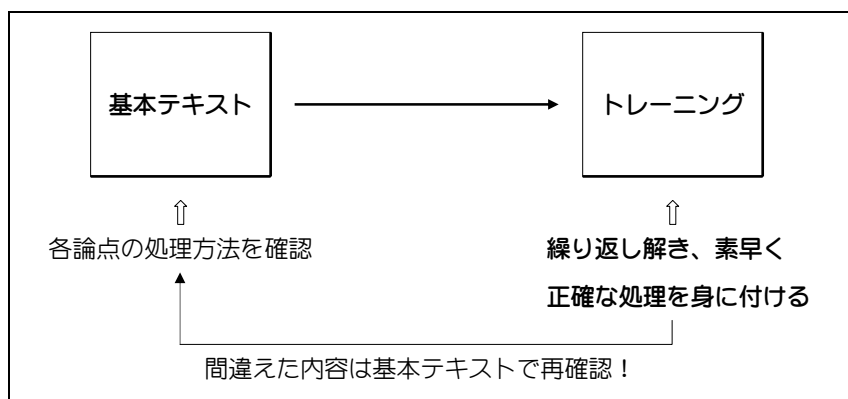
■ 計算の学習方法

前述の通り、財務諸表論の計算問題は、財務諸表の作表問題、具体的には貸借対照表や損益計算書を作成する総合問題を中心として出題され、その他注記事項の記載、会計規定の空所補充問題などの種々の個別問題が出題されます。

このような計算問題を攻略するために、どのように学習を進めていけばよいのか。ここでは、財務諸表論の計算の学習方法を紹介します。

(1) 論点ごとの処理を正確に身に付ける！

計算問題を解くためには、各論点ごとの処理方法を正確に身に付け、素早く仕訳が切れるようにならなければいけません。このためには、基本テキストの内容をしっかりと確認し、該当するトレーニングの問題を繰り返し解くようにしましょう。



トレーニングは、各回の講義内容に該当する個別問題を収録したものです。収録されている問題を反復して解き、素早く、正確な処理が出来るようにしましょう。

なお、間違った内容は基本テキストに戻り、正確な処理を再確認するようにしてください。

また、勉強時間に余裕がある方や更なるレベルアップを図りたい方は、市販教材の「個別計算問題集」をお勧めします。「個別計算問題集」を利用することにより、応用力を身に付けていくことができます。

(2) 財務諸表への表示方法及び表示科目をおぼえる！

財務諸表論の計算問題で作成する貸借対照表や損益計算書は、株主総会などに提出される正式な財務諸表となります。正式な財務諸表の作成には一定のルールがあり、そのルールに従った表示を行わなければなりません。

各論点ごとの処理方法をおぼえたら、次にその表示方法を身に付けるようにしましょう。

① 正確な処理方法をおぼえたら…



② **財務諸表への表示方法を身に付ける！**

(区分表示の方法、金額欄の使い方など一定のルールを押さえる)

また、正式な貸借対照表や損益計算書を作成するにあたっては、表示科目を用いて解答しなければなりません。よって、貸借対照表や損益計算書に記載される表示科目を確実に身に付けることも重要になります。

なお、勘定科目とは、仕訳や勘定記入の際に用いられる科目であり、表示科目とは、貸借対照表や損益計算書に記載する際に用いられる科目をいいます。

【E×】 売掛金の決済にあたり小切手500を受け入れ、ただちに当座預金とした。

① 仕 訳

(借) 当座預金 500 (貸) 売 掛 金 500

② 貸借対照表への表示

		％
現金及び預金	500	

表示科目を用いて解答！

財務諸表への表示方法や表示科目を身に付けるためにも、(1)で紹介したトレーニングを繰り返し解き、その方法を正確に身に付けるようにしてください。

(3) 注記事項をおぼえる！

注記事項とは、貸借対照表や損益計算書に記載されている科目や金額について、詳細な情報を提供するために、文章で補足説明を行うものです。

財務諸表論の計算問題では、貸借対照表や損益計算書の作成に関連して、注記事項の記載も要求されます。この注記事項も正確に身に付けるようにしましょう。

なお、注記事項には①重要な会計方針に係る事項に関する注記、②貸借対照表等に関する注記など、種々のグループがあります。注記事項をおぼえるにあたっては、どの注記事項が何のグループに属するのか、各グループごとに記載する注記事項をおぼえるように心掛けてください。

—— 【重要な会計方針に係る事項に関する注記】 ——

① 有価証券の評価基準及び評価方法
② たな卸資産の評価基準及び評価方法
⋮

—— 【貸借対照表等に関する注記】 ——

① 資産が担保に供されている場合
② 親会社株式の各表示区分別の金額
⋮

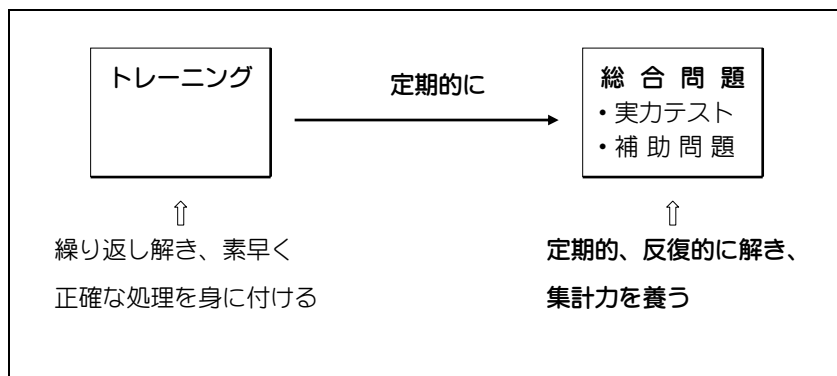
グループごとに分けて、各注記事項をおぼえる！
↓
注記事項の学習にあたっては「注記文例集」を有効活用！

また、注記事項の学習には、ポイントチェックに収録されている「注記文例集」を有効活用しましょう。「注記文例集」には、各注記事項における記載内容、実際に書く文章の例示が示されています。「注記文例集」に繰り返し目を通し、正確に身に付けるようにしましょう。

(4) 総合問題を定期的に解く！

財務諸表論の計算問題の中心は総合問題です。総合問題を攻略するためには、各論点の正確な処理に加え、金額を集計する力、すなわち「集計力」が必要になります。この「集計力」を養うためには、定期的、反復的に総合問題を解くことが重要になります。授業で配布される実力テストや補助問題を繰り返して解き、「集計力」を養うように心掛けてください。

なお、総合問題の解き方については、各講師の説明やトレーニングの解答編に収録されている「※計算表の作成手順」及び「㊦計算表の作成手順」を参考にしてください。



また、総合問題の練習にあたっては、市販教材の「総合計算問題集」を利用するのも良いでしょう。数多くの総合問題を解くことにより、集計力を養うと同時に総合問題の出題パターンにも慣れるようにしましょう。

<メ モ>

テーマ 1 計算書類等

理論：重要度 一

計算：重要度 ★

財表計算の中心は、「会社法」及び「会社計算規則」の規定に準拠した計算書類等の作成にある。ここでは、「会社法」及び「会社計算規則」に規定する計算書類等の体系及び各書類の概要について学習していく。



このテーマの学習内容

テーマ番号	学 習 内 容	完全合格
1 - 1	計算書類等の概要	No. 1 第 1 回
1 - 2	注記表の概要	No. 1 第 2 回

1-1 計算書類等の概要

1 計算書類等

計算書類等については、会社法で「株式会社は、法務省令で定めるところにより、各事業年度に係る**計算書類（貸借対照表、損益計算書その他株式会社の財産及び損益の状況を示すために必要かつ適当なものとして法務省令で定めるものをいう。）**及び**事業報告**並びにこれらの**附属明細書**を作成しなければならない。」と規定している。ここで、「その他株式会社の財産及び損益の状況を示すために必要かつ適当なものとして法務省令で定めるもの」とは、会社計算規則において、「**株主資本等変動計算書**及び**個別注記表**とする。」とされている。

したがって、計算書類等の体系は以下になる。

<計算書類等の体系>

計	貸借対照表
算	損益計算書
書	株主資本等変動計算書
類	個別注記表（注記表）
計算書類に係る附属明細書	
事業報告	
事業報告に係る附属明細書	

2 各計算書類等の概要

名 称	概 要
貸借対照表	会社の財産に関する状況を示す書類
損益計算書	会社の損益に関する状況を示す書類
株主資本等変動計算書	貸借対照表の純資産の部の一会計期間における変動額とその変動事由を示す書類
個別注記表（注記表）	計算書類の数値や項目に関する補足的な財務情報を示す書類
事業報告	会社の計算以外の会社の状況に関する重要な事項等を示す書類
附属明細書	上記書類に関する期中増減、期末内訳等を示す書類

3 金額の表示単位

会社計算規則では、計算書類及びその附属明細書に係る事項の金額は、一円単位、千円単位又は百万円単位のいずれかによることとされている。

なお、受験上は、**千円単位**での作成が通常になると考えられる。

また、千円未満又は百万円未満の端数処理については、切捨てや切上げ、又は、四捨五入等の処理が行われる。受験上は作成単位並びに端数処理の方法が明示されるため、その指示に従い作成することとなる。

<メ モ>

テーマ 2 計算規則の概要

理論：重要度 一

計算：重要度 ★★★

「会社法」及び「会社計算規則」の規定に準拠した計算書類等のうち、ここでは、貸借対照表のフォーム、各区分ごとの表示科目を学習していく。



このテーマの学習内容

テーマ番号	学 習 内 容	完全合格
2-1	計算規則のフォーム	No.1 第1回
2-2	資産の部の表示科目	No.1 第1回
2-3	負債の部の表示科目	No.1 第1回
2-4	純資産の部の表示科目	No.1 第1回
2-5	経過勘定項目	No.1 第2回

2-1 計算規則のフォーム

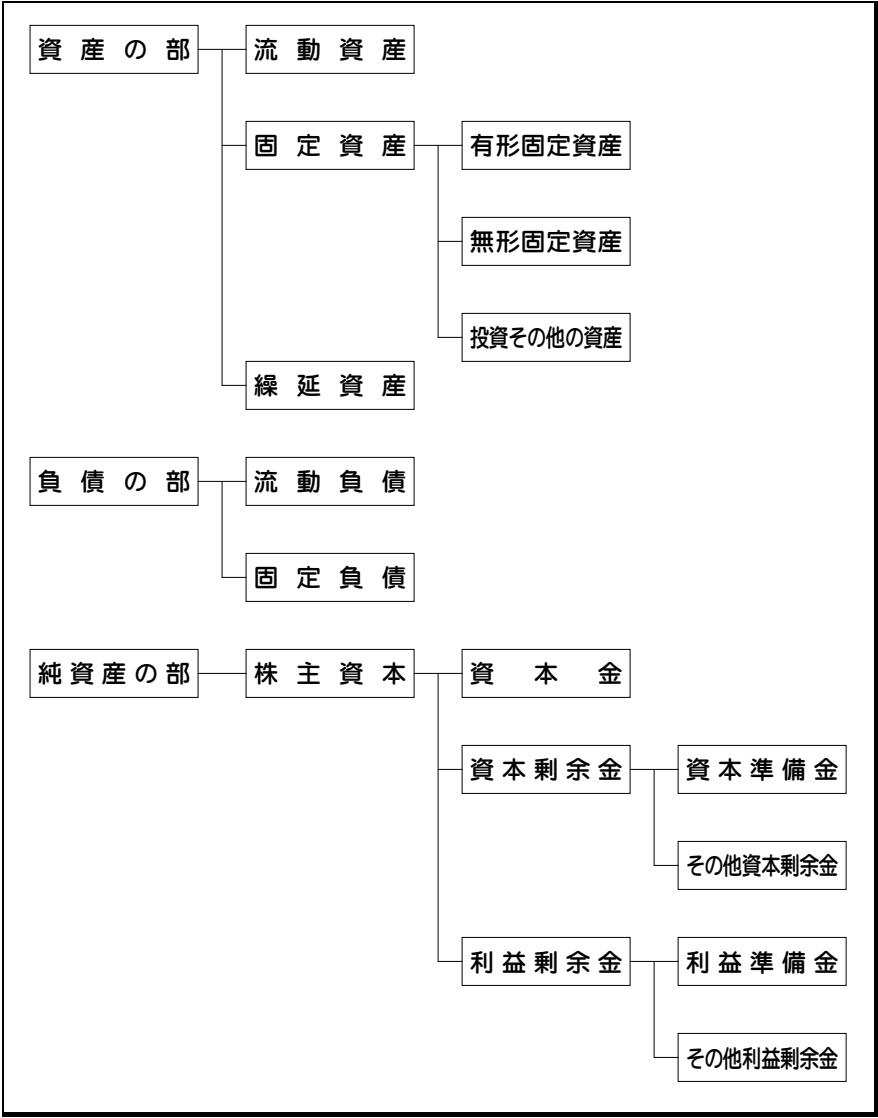
1 会社計算規則に準拠した貸借対照表

貸 借 対 照 表			
A株式会社		××年×月×日	(単位：千円)
科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
I 流 動 資 産	(65,200)	I 流 動 負 債	(41,300)
現金及び預金	6,000	支払手形	13,500
受取手形	23,000	買掛金	16,700
売掛金	22,000	短期借入金	5,400
有価証券	1,500	未払金	5,700
商 品	10,000	II 固 定 負 債	(14,700)
短期貸付金	2,500	長期借入金	1,200
前払費用	200	退職給付引当金	13,500
II 固 定 資 産	(89,800)	負債の部合計	56,000
1有形固定資産	(70,600)	純 資 産 の 部	
建 物	27,000	I 株 主 資 本	(100,500)
備 品	5,600	1資 本 金	50,000
土 地	38,000	2資 本 剰 余 金	(20,000)
2無形固定資産	(800)	(1)資 本 準 備 金	15,000
商 標 権	200	(2)その他資本剰余金	5,000
特 許 権	600	3利 益 剰 余 金	(30,500)
3投資その他の資産	(18,400)	(1)利 益 準 備 金	5,000
投資有価証券	7,300	(2)その他利益剰余金	(25,500)
関係会社株式	3,500	新築積立金	5,500
長期貸付金	4,600	繰越利益剰余金	20,000
長期預金	3,000		
III 繰 延 資 産	(1,500)		
開 発 費	1,500	純資産の部合計	100,500
資 産 の 部 合 計	156,500	負債及び純資産の部合計	156,500

2 タイトル等の記載

まず、タイトル（貸借対照表）を記載したうえで、その次の行に①会社名、②決算日の日付、③単位の3つをそれぞれ記載する。

3 区分名の記載



区分名の記載に当たっては次の点に注意すること。

- (1) **資本金、資本準備金、その他資本剰余金、利益準備金**の4つについては、区分名であると同時に科目名でもあると解されている。
- (2) 区分名の前に番号を付すことについては特に決まりはないが、慣行として資産の部、負債の部、純資産の部には番号を付さず、流動資産、固定資産などさらに細分化した区分にはローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、…）を付し、有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産などさらに細分化した区分には算用数字（1、2、…）を付し、資本準備金、その他資本剰余金などさらに細分化した区分にはカッコ数字（(1)、(2)、…）を付するのが一般的である。

4 各区分の合計額の記載

各区分につき合計額を記載する。

- (1) 資産の部、負債の部、純資産の部の合計額は、各区分の末尾に別に1行を設けて「**〇〇の部合計**」として記載する。また、負債の部と純資産の部の両者の合計額も「**負債及び純資産の部合計**」として記載する。
- (2) さらに細分化した各区分の合計額は、各区分名の横の金額欄に**カッコ書**で記載するのが慣行である。ただし、**資本金、資本準備金、その他資本剰余金、利益準備金**の4つについては、それが科目名でもあることから金額欄にカッコは付さない。

5 その他の事項

- (1) 表のフォームには**勘定式**と**報告式**の2つがある。会社計算規則ではいずれによるか明定されていないが、**勘定式**によるのが慣行である。
- (2) 各区分に記載する科目の名称及び配列順序については、ある程度の約束事や慣行があるが、これらについては次のテーマでとり上げるので、今はとりあえず出てきた科目名とその表示区分を覚えておけばよい。

🔄 トレーニング 問題 1



参 考 勘定科目と表示科目の関係

勘定科目とは、仕訳や勘定記入の際に用いられる科目であり、表示科目とは、貸借対照表や損益計算書に記載する際に用いられる科目である。

財務諸表論の計算問題においては、外部報告用の貸借対照表や損益計算書を作成することとなるため、勘定科目ではなく**表示科目を用いて解答**することとなる。よって、貸借対照表や損益計算書に記載される表示科目を確実にマスターすることが重要となる。勘定科目と表示科目の関係には、次の2つのパターンがある。

(1) 勘定科目であり、かつ、表示科目でもあるもの

(例)	《勘定科目》	《表示科目》
	受取手形	→ 受取手形
	買掛金	→ 買掛金

(2) 勘定科目と表示科目が異なるもの

(例)	《勘定科目》	《表示科目》
	当座預金	→ 現金及び預金
	手形借入金	→ 短期借入金

特に、(2)の場合は問題の資料に与えられている**勘定科目を表示科目に置換えて貸借対照表や損益計算書に記載**することとなる。

なお、貸借対照表や損益計算書に記載される表示科目については次のテーマから順次学習していく。

2-2 資産の部の表示科目

貸借対照表の資産の部の表示科目及びその配列方法をマスターしよう。

1 資産の部の典型的な表示科目

流 動 資 産	固 定 資 産	繰 延 資 産
現 金 及 び 預 金	(1) 有形固定資産	株 式 交 付 費
受 取 手 形	建 物	社 債 発 行 費
売 掛 金	車 両	創 立 費
有 価 証 券	備 品	開 業 費
商 品	土 地	開 発 費
貯 蔵 品	建 設 仮 勘 定	
前 渡 金	(2) 無形固定資産	
未 収 金	特 許 権	
立 替 金	借 地 権	
短 期 貸 付 金	商 標 権	
短期固定資産売却受取手形	(3) 投資その他の資産	
	投 資 有 価 証 券	
	関 係 会 社 株 式	
	長 期 預 金	
	長 期 未 収 金	
	長 期 貸 付 金	
	長期固定資産売却受取手形	

2 流動資産の典型的な表示科目

(1) 典型的な表示科目

現金及び預金	……現金及び短期性の預金
--------	--------------

受取手形	……営業取引により受取った手形
------	-----------------

売掛金	……営業取引から生じた未収額
-----	----------------

有価証券	……短期で保有する株式や債券などの証券
------	---------------------

商品	……商業を営む企業が販売する目的で所有する購入物品
----	---------------------------

貯蔵品	……消耗品などの期末未使用額
-----	----------------

前渡金	……商品などの購入のための前渡額
-----	------------------

未収金	……営業取引以外の取引から生じた未収額のうち短期性のもの
-----	------------------------------

立替金	……取引先等に生じた一時的な立替額
-----	-------------------

短期貸付金	……貸付金のうち短期性のもの
-------	----------------

短期固定資産売却受取手形	……固定資産の売却（営業取引以外の取引）により受取った手形のうち短期性のもの
--------------	--

(2) 表示科目の配列順序

流動資産の区分の表示科目の配列は、おおむね上記の順序で行うのが慣行であるが、受験上は**現金及び預金から商品までの配列順序**を覚えておけばよい。それ以下はこだわる必要はない。

3 固定資産の典型的な表示科目

(1) 有形固定資産の典型的な表示科目

建 物	……事務所、店舗、倉庫などの営業用の建物
車 両	……トラック、乗用車などの営業用の自動車
備 品	……机、椅子、パソコンなどの営業用の備品
土 地	……事務所、店舗、倉庫の敷地などの営業用の土地
建設仮勘定	……建設（製造）中の有形固定資産に係る代金の前渡額など

(2) 無形固定資産の典型的な表示科目

特 許 権	……発明の独占的利用権
借 地 権	……他人の所有する土地を利用するための地上権及び賃借権
商 標 権	……登録した商品の商標についての独占的利用権

(3) 投資その他の資産の典型的な表示科目

投資有価証券	……長期で保有する株式や債券などの証券
関係会社株式	……当社の子会社、関連会社などの株式
長 期 預 金	……預金のうち長期性のもの
長 期 未 収 金	……未収金のうち長期性のもの
長 期 貸 付 金	……貸付金のうち長期性のもの
長期固定資産売却受取手形	……固定資産の売却（営業取引以外の取引）により受取った手形のうち長期性のもの

(4) 表示科目の配列順序

表示科目の配列はおおむね前記の順序で行うのが慣行であるが、受験上は次のように考えておけばよい。

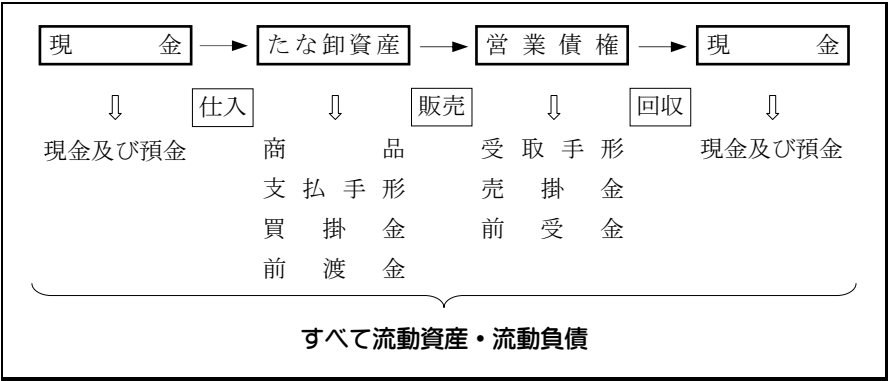
- ① 有形固定資産については、**建設仮勘定を最後に、その上に土地を表示すること**を覚えておけばよい。それ以外はこだわる必要はない。
- ② 無形固定資産については、こだわる必要はない。
- ③ 投資その他の資産については、**投資有価証券と関係会社株式を先に表示すること**を覚えておけばよい。それ以下はこだわる必要はない。

4 資産の流動・固定分類

貸借対照表上の資産の科目は正常営業循環基準や1年基準などを適用して流動・固定分類がなされている。

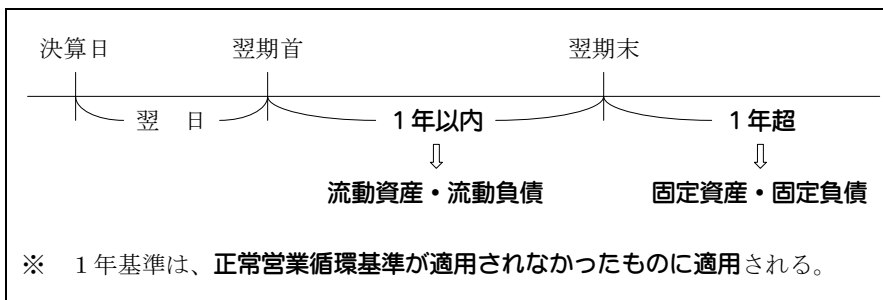
(1) 正常営業循環基準

正常営業循環基準とは、**企業の正常な営業循環過程**（例えば、商企業なら現金から始まり、現金→たな卸資産→営業債権→現金と再び現金に環流する過程）を構成する資産及び負債は、**すべて流動資産・流動負債**とする基準をいう。



(2) 1年基準

1年基準とは、貸借対照表日（決算日）の翌日から起算して1年以内に期限が到来するものを流動資産・流動負債とし、1年を超えて期限が到来するものを固定資産・固定負債とする基準をいう。



なお、1年基準により流動資産と固定資産・投資その他の資産に分類表示される項目には以下のようなものがある。

項 目	表 示 区 分	表 示 科 目
預 金	流 動 資 産	現 金 及 び 預 金
	投資その他の資産	長 期 預 金
未 収 金	流 動 資 産	未 収 金
	投資その他の資産	長 期 未 収 金
貸 付 金	流 動 資 産	短 期 貸 付 金
	投資その他の資産	長 期 貸 付 金
固定資産売却	流 動 資 産	短期固定資産売却受取手形
受 取 手 形	投資その他の資産	長期固定資産売却受取手形

5 繰延資産の典型的な表示科目

(1) 典型的な表示科目

株 式 交 付 費	……新株の発行などの株式の交付のために必要な費用の繰延額
-----------	------------------------------

社 債 発 行 費	……社債の発行のために必要な費用の繰延額
-----------	----------------------

創 立 費	……会社設立に必要な費用の繰延額
-------	------------------

開 業 費	……会社設立後、営業を開始するまでに必要な費用の繰延額
-------	-----------------------------

開 発 費	……資源の開発、市場の開拓などの費用の繰延額
-------	------------------------

(2) 表示科目の配列順序

繰延資産の配列については、こだわる必要はない。

2-3 負債の部の表示科目

貸借対照表の負債の部の表示科目及びその配列方法をマスターしよう。

1 負債の部の典型的な表示科目

流 動 負 債	固 定 負 債
支 払 手 形	社 債
買 掛 金	長 期 借 入 金
短 期 借 入 金	退 職 給 付 引 当 金
未 払 金	長 期 未 払 金
未 払 法 人 税 等	長 期 預 り 金
前 受 金	長期固定資産購入支払手形
預 り 金	
賞 与 引 当 金	
短期固定資産購入支払手形	

2 流動負債の典型的な表示科目

(1) 典型的な表示科目

支 払 手 形	……営業取引（商品の仕入など）により振出した手形
買 掛 金	……営業取引から生じた未払額
短 期 借 入 金	……借入金のうち短期性のもの
未 払 金	……営業取引以外の取引から生じた未払額のうち短期性のもの
未払法人税等	……法人税、住民税及び事業税の期末未納額
前 受 金	……商品などの販売代金の前受額
預 り 金	……従業員等からの一時的な預り金のうち短期性のもの
賞与引当金	……翌期に支払う従業員の賞与に関する引当金
短期固定資産購入支払手形	…固定資産の購入（営業取引以外の取引）により振出した手形のうち短期性のもの

(2) 表示科目の配列

表示科目の配列はおおむね上記の順序で行うのが慣行であるが、受験上は**支払手形から未払法人税等までの**ところを覚えておけばよい。それ以下については、こだわる必要はない。

3 固定負債の典型的な表示科目

(1) 典型的な表示科目

社 債	……長期の資金調達のために発行する証券
長期借入金	……借入金のうち長期性のもの
退職給付引当金	……将来、従業員に支払う退職給付に関する引当金
長期未払金	……未払金のうち長期性のもの
長期預り金	……預り金のうち長期性のもの
長期固定資産購入支払手形	…固定資産の購入（営業取引以外の取引）により振出した手形のうち長期性のもの

(2) 表示科目の配列

表示科目の配列はおおむね上記の順序で行うのが慣行であるが、受験上は**社債と長期借入金を先に表示**することを覚えておけばよい。それ以下については、こだわる必要はない。

4 負債の流動・固定分類

資産と同様に、貸借対照表上の負債の科目は正常営業循環基準や1年基準などを適用して流動・固定分類がなされている。

なお、**1年基準により流動負債と固定負債に分類表示される項目**には以下のようなものがある。

項 目	表示区分	表 示 科 目
借 入 金	流動負債	短 期 借 入 金
	固定負債	長 期 借 入 金
未 払 金	流動負債	未 払 金
	固定負債	長 期 未 払 金
預 り 金	流動負債	預 り 金
	固定負債	長 期 預 り 金
固定資産購入支払手形	流動負債	短期固定資産購入支払手形
	固定負債	長期固定資産購入支払手形

研究 仮払金・仮受金の表示

仮払金は資産、仮受金は負債としての性質を持つ科目である。しかし、これらはあくまで期中の取引において**便宜的に用いられた仮の科目**であるため、期末において財務諸表を作成するにあたっては、**該当する正しい科目に振り替えて、財務諸表に記載**しなければならない。

設 例

当社は車両を修理するため、修理業者に対して修繕費を200千円支払ったが、支払額を仮払金として処理しているのみである。

解 説

上記設例のケースでは、当社は以下の会計処理を行っている。

仮払金 200千円 / 現金 200千円

仮払金はあくまで期中に便宜的に用いられる科目であるため、期末において財務諸表を作成するにあたり、該当する正しい科目に振り替える必要がある。

修繕費 200千円 / 仮払金 200千円  **期末に行うべき仕訳**

※ 期末において仮払金や仮受金の内容が不明の場合も稀にある。そのような場合には仮払金及び仮受金の残高をそれぞれ流動資産及び流動負債に表示することが想定される。

2-4 純資産の部の表示科目

純資産の部の表示科目及びその配列方法をマスターしよう。

1 純資産の部の表示

純資産の部の表示はすでにみているが、会社計算規則において、その表示が厳密に規定されているため、もう一度確認してみよう。

純 資 産 の 部	
Ⅰ 株 主 資 本	(×××)
1 資 本 金	×××
2 資 本 剰 余 金	(×××)
(1) 資 本 準 備 金	×××
(2) その他資本剰余金	×××
3 利 益 剰 余 金	(×××)
(1) 利 益 準 備 金	×××
(2) その他利益剰余金	(×××)
○ ○ 積 立 金	×××
繰越利益剰余金	×××

2 資本剰余金の区分

(1) 資本準備金

科目の内容については後日学習する。

(2) その他資本剰余金

その他資本剰余金の内容は、資本金及び資本準備金の取崩によって生ずる剰余金並びに自己株式処分差益であるが、詳細は後日学習する。

3 利益剰余金の区分

(1) 利益準備金

科目の内容については後日学習する。

(2) その他利益剰余金

任意積立金	その他利益剰余金のうち、主に特定の目的のために株主総会等の決議により積み立てられたもの
繰越利益剰余金	その他利益剰余金のうち、任意積立金以外のもの

その他利益剰余金のうち、任意積立金のように、株主総会又は取締役会の決議に基づき設定される項目については、**その内容を示す科目**をもって表示し、それ以外については**繰越利益剰余金**として表示する。

その他利益剰余金の典型的な表示科目は以下のとおりである。

新築積立金	……固定資産の新築に伴う支出に備えた積立金
-------	-----------------------

役員退職慰労積立金	……役員の退職金に伴う支出に備えた積立金
-----------	----------------------

別途積立金	……特定の目的のない積立金
-------	---------------

繰越利益剰余金	……その他利益剰余金のうち、任意積立金以外のもの
---------	--------------------------

その他利益剰余金の配列順序はとくにない。ただし、**繰越利益剰余金は最後に、別途積立金をその上に表示するのが慣行**であることから、これだけは覚えておくこと。

🔄 トレーニング 問題 2、3

<メ モ>